

山口市新本庁舎の建設等に関する調査特別委員会最終報告書

山口市新本庁舎の建設等に関する調査特別委員会は、平成30年第5回山口市議会定例会において、全会派から選出された委員を構成員とし、本市の新本庁舎の建設等に関して調査、検討を行うことを目的に設置されたところです。平成30年12月14日の設置以降、3年余りの間、24回にわたる委員会の開催に加え、県内外の先進市への現地視察の実施や、議会機能の整備に関する協議会の開催など、様々な観点からの調査、検討を進めてまいりました。

本市の新本庁舎建設につきましては、平成30年3月の山口市新本庁舎整備基本方針の策定以降、令和元年6月の山口市新本庁舎整備基本計画の策定、さらには、このたびの山口市新本庁舎等基本設計と、その取組を段階的に進めてこられたところです。その取組に際しては、若手職員を中心とした庁内ワーキンググループでの議論に加えて、専門的な立場から有識者の意見及び助言を求めることを目的として設置されました山口市新本庁舎整備専門会議や、市民アンケート、市民ワークショップ、パブリックコメントなど、それぞれの段階において市民の皆様の御意見をお伺いしながら進めてこられたところでもあります。

これまでの特別委員会では、執行部から示される資料を中心として議論を進めてきたところであり、その中においても、現本庁舎及び中央駐車場の所在地近傍において活断層が伏在する可能性についての指摘に関することや、消防本部をはじめとする新本庁舎に集約する組織に関すること、また、新本庁舎と併せて整備する新立体駐車場の規模や市民交流機能の在り方に関することなどについては、防災拠点となる庁舎機能の維持や事業費への影響、さらには、山口都市核のまちづくりへの貢献など、様々な視点での議論を行いました。

また、基本設計の検討時に市議会フロア平面計画の提案がなされた際には、新本庁舎整備に求められる議会機能に関し、議会としての認識を共有するための協議会を集中的に開催し、議会の活性化、充実した審議・審査に資するための議場、委員会室、議会図書室、諸室の整備などについて議論を重ね、本特別委員会としての意見の取りまとめを行ったところです。これを受けまして、その後、市議会フロアの有効活用をはじめとして、セキュリティにも配慮された新たな市議会フロア平面計画が執行部から示されるに至りました。

こうした過程を経た上で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響をはじめとして、周辺道路や構内道路の形状等の設計の詳細に係る詰めの作業に時間を要していた基本設計については、基本理念を「白い鐘塔に佇む、ひと・まち・未来にやさしい市民の丘」とする最終案が令和3年11月19日開催の特別委員会において示されたところです。この基本設計の最終案においては、これまで特別委員会で議論を進めてまいりました各施設の配置計画や意匠計画などが明らかになると同時に、概算事業費については総額が約188億9,150万円となり、令和元年6月策定の山口市新本庁舎整備基本計画と比較して約41億円の増額となることが示されました。その後の質疑においては、事業費の増額に対して、今後の実施設計では、施設機能を確保しながら、より安価な整備方法についての検証を行っていく旨の方針が執行部から示されたところです。

その後の令和4年2月8日開催の特別委員会においては、基本設計の最終案に係るパブリックコメントの状況等の説明に対する質疑に加えまして、今後の実施設計や建設工事などに関して、各委員からの意見に加え、特別委員会を代表いたしまして、私から総括的な意見として次の3点を申し述べたところです。

まず、1点目といたしましては、100年先まで長く市民に愛される庁舎となるべく、今後の実施設計や建設工事、さらには竣工後の運用のそれぞれの段階における検討を深められ、県都としての山口市にふさわしい、また、ポストコロナの時代にも重なる令和の時代にふさわしい、よりよい庁舎建設につなげていただくための一層の取組を求めるものであります。

次に、2点目といたしまして、庁舎建設に関する様々な情報につきましては、市議会はもとより、市民の皆様にも広く提供していただき、庁舎建設への理解を求める不断の努力をお願いするものであります。

最後に、3点目といたしまして、基本計画時に比べて大幅な増額となりました事業費については、施設機能を確保した上で、建設コストの縮減に向けた取組をより一層進めていただくことを求めるものであります。

本特別委員会での調査、検討につきましては、本日の最終報告をもって終了いたしますが、新本庁舎の建設事業は、令和6年度の新本庁舎棟の竣工、令和8年度の市民交流棟と新立体駐車場などの竣工に向けて、今後、実施設計や建設工事が本格化してまいります。市議会といたしましても、先ほど申し述べました意見も含めまして、これまでの本特別委員会での議論の経過等を十分に踏まえた上で、整備の進捗に応じた新たな議

論を進めることで、県都にふさわしい市民に愛される庁舎建設につなげていただきたいと考えております。

以上、 山口市新本庁舎の建設等に関する調査特別委員会の最終報告といたします。

令和4年3月17日

山口市新本庁舎の建設等に関する調査特別委員長 野 村 幹 男